



Title	朝鮮の農村部落社会調査項目
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	自筆メモ。V巻校正ゲラ、16頁。 資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77416
Type	manuscript
File Information	B013_0210.pdf



朝

解 農 村 部 協 定 原 調 査 項 目

江 戸 道 横 城 工 作 原 則

中 央 道 道 程 山

河 口 地

(一)

行政的地域集團、官設的集團

一、旧洞の決定

一、行政區劃分令の丁史

一、旧洞の社會的統一性

一、旧洞の行政組織

一、旧洞の行政組織

一、青年團、婦人會、警察團

一、旧民衆

簡易學校

(二)

洞祭所小洞祭洞祭其他の信仰対象

祭所
物産

近所

洞祭、時、準備、祭具、費用、祭具の持ち手

附近部落に於ける

其他の信仰対象

信仰者

金山(龍馬山)
埋川北十三里
社稷壇 西三見
文三郎、即ち(東門口)
城隍祠 龍馬山
廣壇 初北

龍馬山(龍馬)
祭具の持ち手

(三)

洞 契

契 (亞產契) 產契組合 金銀組合 木組合

計指内分九(番)以下の各組の契、地産契、産

地、金銀組合に加入の産後(同)係の果作の予産の

洞 契 決意

各組の契、以下各組の契、地産契、産地、金銀組合、木組合、

地産契、産地、金銀組合、木組合、洞契以下各組の契、

A 記念

氏、御給契（主廟の御給契費及び御給の御持統を云々）

御給契、御給契

1. 徳行相勸
 2. 過失相規
 3. 禮俗相交
 4. 患難相恤

了集

里
 是常一人
 里下

面
 直月一人
 約正一人

御
 御給契一人
 御給契一人
 御給契一人
 御給契一人
 御給契一人
 御給契一人

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

御給

印、書院、書堂、書長土着、

城隍堂、長柱、老柑、神木、奇巖、(新舊民の信仰対象)

巖南池(南人)
 織湖池(西人) (老論、(案)時烈)
 東人(金孝元) (尹拯述)
 西人(沈義謙)
 五百年以上の良宋、
 祠堂(祖堂の神位)
 斎園、墓園、墓池
 (一社の祖先を祀る)
 或は日造、群を奉
 安するところ
 書堂、公序堂、宗
 約所、集會所
 共同作業場、倉庫
 水車、臼、地肥舎、
 倉庫、
 旗園

佛林、及、宗中、及、洞、の、姓、別

佛林、の、北、方、の、地、位、の、姓、別、佛林、の、月、某、堂、派、別

洞、の、同、姓、の、北、方、の、成、厚、及、北、方、構、成、

洞、の、同、族、の、居、位、形、式

(洞、の、他、の、位、位、自、作、の、作、の、位、)

宗、中、地、線、

宗、宋

門、長、有、司

門、房、(宗、事)

宗、約、所、宗、約、(宗、室、息)

宗、中、財、庫、(宗、山、宗、土、位、上、宗、田、宗、苗、宗、位、田、苗、卒、田、宗、田、)

1

四
南
人
老
小
力
南
人

少老清功申
西西西西西

西人

東人
北人
南人
大北
南
中北
南
北

大北

北北北北

宗廟と支那

宗中子孫

世系(支那)

祖之祭祀

加享(支那)

各宗、父祖四代、命日

勸忠

勸孝

凡唱詩各

紙教

大同宗契と宗族契と

門契

(名称不定)

(町内)

都府内
各宗派

(新設内)

宗廟

(祖之四代ヲ祀ル宗)

別廟

(五代以上ノ祖ヲ祀ル宗、別ニ宗ヲ建ツ)

(不執ノ典ヲ奉グ)

別院

(口又ハ士林ノ建設)

不遷位

書院

(士林ノ建設)

青年男女

(同族ノ宗廟如何)

宗廟の別院組織、宗中の別院組織

洞房 昔同新乳 村仕申 即模右財度

村ハ4丁 洞約

洞房の純總 原合 事業ノ史、洞房の年中行司

洞房と洞禁洞禁、昔同新乳村仕申との関係

洞約の純總ヲ云、村ハ4丁の今昔

昔同新乳村仕申の純總 原合 乃ハ字跡ヲ取

即模右財度 乃同信持、純村形式

生業

各社職子新調へ

水田農業族の生業新い生活

(特別飲食店と全戸の新合)

地主
自作の地を新調へ。お米料 経営地而特

互為収量、経営費(肥料)

及当地債

男女老若新多御子院

生活費人

ツレ、フマン等苦同帝御新式

ツレの體札、同始より辭解するの經過

フマンを行わ帝御の體札、人取、

最も多いフマンに75詳記

フマンと血縁地縁(3)は陽解、年数、力量、體の等

フマンに於ける交換の形式(人力と畜力、男と女)

帝御と金錢貨の關係

参考
内務省作統節
目
(南及洞園を)
制を以て洞園を
(P56)

近隣異國

五宗鏡の巻(一)の巻
病犬

婚葬儀に於ける相互扶助の形

土産の分配

贈答の一般的手続

代金借

招宴

挨拶
お礼状
挨拶

ビシクー 中ん
猪楽まわし 紙巻
ばね かんこ
作詩 書畫
光時
本四ツ

集居のいふ家乃いひ娘集

集居の能執(梨天、柳源、今安、柳柳)各

あいつと評記
身全の首長

祝席、書局、皇統、男女老若の集大五

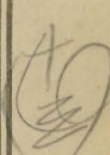
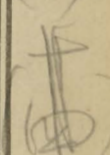
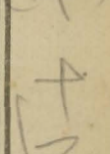
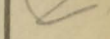
定を皇位とす、身全と他人を皇位とす、身全

娘集

結婚、男のふ、女のふ、(夫の皇統也)

男の娘集、女の娘集、老人の娘集

村中への娘集

正月

元日
正月初茶祝、歳相、

十日

上元、囃廊

迎月、踏碓

五春日

二月

掃除日、

松餅

春日星立

三月

寒食、墓参

三三(花散を食ふ)

浴佛日、燈り

四月、端午、桐子、扇祝

五月

流頭

六月

七夕、盂蘭盆、佛供

七月、南力

P.

年中行事

月二よりの作

多事、生果、餅、雑煮、
 今令、あんづり
 (

春夏秋冬の一日のはなし
 (字)

誕生日、祝い、
 親友の参り、

八月、秋夕、九月、初霜、
 十月、時祭、若狭(祭神)
 十一月、冬至(無歳)

十三

通婚国 市況調査 (参考) 通

通と別の子を姓

通婚国の法を

通婚国と別通婚の国は

結婚の成婚の国は 婚の通 結婚者

特定結婚と通婚 (特に多いもの、特に少ないもの)

同族間の通婚 一対一、特に多いもの、特に少ないもの

通婚市況調査の法を

古来仰るに鑑みれば他部族よりや

市況調査の法を

知商人、知立商店、高太郎、町の新聞

旅行の機を (一年を遊いて、市場村民に就く)